

芸術祭が始まる

東京藝術大学美術学部絵画科准教授
アーツ前橋チーフキュレーター

みやもと 宮本
たけのり 武典

⑭ 建築学生から仕立て屋へ

前号に引き続き「地域おこし協力隊」として桐生のまちづくりで飛び込んでくれた若者を紹介させていただきます。キタガワサナさんにはじめて会ったのは2年前、桐生に並ぶ織物の産地・富士吉田でした。この連載で以前紹介した、ファッションデザイナー山縣良和さんが主宰する「coconogacco」の卒業制作展が富士吉田市内で開催されていて、彼女もその出品者の一人でした。

元織物工場や空き家などひなびた空間に学生たちの自由でカラフルなファッション表現が躍動するコントラストが見事で、素晴らしい卒業制作展だったのですが、そのときに受付で観賞マップを手渡してくれたのがキタガワさんでした。

少し立ち話をするうちに、彼女は東京藝大建築学科を首席卒業した才女でありながら、本当はファッションが好きで「coconogacco」にダブルスクールで通っていたことが分かりました。理系の建築と文系のファッションデザインを並行して学ぶなんて面白い子だなと思ったのですが、その卒業制作も実にユニークで

した。

彼女は商店街の空き店舗に自作の服やミシンを持ち込み「架空の仕立て屋」を開いて、それが自分の卒業制作だということです。もちろん普通の仕立て屋ではなく、「服づくりのための立体的な型（紙）」だという不思議なおブジェがあちこちに置かれ、それらは前衛的な建築模型のようにも見えました。

以降、キタガワさんは、私と山縣さんが企画する勉強会

や展示会に顔を出すようになり、この春、桐生市の協力隊募集に飛び込んでくれたのです。

いま、彼女は、本町通りにある元履物店を住まい兼アトリエにして、2年前は「架空」だった仕立て屋をさっそく現実のものにしようとしています。最初に仕立てたいのは「仲良くなつた隣近所の4人のおばあちゃんたち」とのこと。若者の行動力って素晴らしい！そして、出会いって本当に不思議だなと思います。



▲▼キタガワサナさんの作品《服を作る前、作ってみる、作ったあと》



パチリいい顔 桐生っ子

市内に居住する3歳まで（申し込み時）の桐生っ子を募集します。

申 右の二次元コードから電子申請でお申込みください。

問 魅力発信課（☎46 - 1049）



ほしのりあ
星野 莉愛ちゃん
6か月



なかむらみおん
中村 美媛ちゃん
3歳6か月

広告